



1 自己評価

I 評価結果

(A: 目標を上回っている B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回っている)

項目	成果と課題 (達成状況)	評定
<p>主体的な学び ～一人も取り残さない授業づくり～</p>	<p>3つのプロジェクトチームによる取組</p> <p>●学習環境・授業のUD化 4月 12月 生徒「授業は工夫され分かりやすい」 87%→90% 教員「分かりやすい指示・説明を意識」 17.6%→100%</p> <p>・授業のUD化が進み、参加できなかった生徒が減少した。 ・次年度も継続し、「一人も取り残さない授業づくり」を目指し、職員全員で取り組みたい。</p> <p>●ICT活用 4月 12月 生徒「クロムブックが学びに役立つ」 58%→95% 教員「授業で効果的に使用した」 56%→61%</p> <p>・校内研等で職員のICT活用のスキルアップに努めた結果、全体が活用に積極的になっていった。 ・使用について、生徒のルールやマナーの徹底が求められる。</p> <p>●アクティブラーニング 4月 12月 生徒「学び合いの中で考えを深めた」 49%→58% 生徒「授業の中で自分の意見を表現した」 44%→84% 教師「1時間に1回自己選択の場面設定」 24%→89%</p> <p>・生徒が主体となる授業づくり実現のため、人間関係づくりからスタートした成果が少しずつ見え始めている。 ・今後は、より理解を深め、学力向上に繋がるよう発問や振り返りなどの研究、実践を進めたい。</p>	<p>B</p>
<p>自己肯定感の向上 人権感覚の醸成</p>	<p>●自己肯定感の向上・人権意識の醸成 4月 12月 生徒「自分には良いところがある」 81%→86% 生徒「いじめや嫌なことを言われたい」 54%→57% 生徒「学校は楽しい」 85%→93%</p> <p>・授業や行事、生徒会活動などで生徒主体の学校づくりに取り組んできた成果が見られた。 ・人権意識については、改善は見られたもののまだまだ課題があり、次年度の取組の重点項目としたい。</p>	<p>B</p>
<p>保護者・地域との 連携</p>	<p>●PTA活動・CS活動の活性化と協働 4月 12月 生徒「自分の住む地域が好き」 80%→87% 生徒「地域や社会のために何かしたい」 59%→76% 生徒「地域の活動や行事に参加している」 65%→77%</p> <p>・PTA活動としてスクールカフェや生徒会とともに、フードロス防止の取組を行う中で、保護者同士や地域とのつながりが深まり、生徒へも良い影響を与えた。活動が活性化した</p>	<p>A</p>

保護者・地域との連携	反面、一部の保護者への負担が大きく、持続可能な体制を整える必要を感じている。 ・学校の支援ボランティアを募集し、登録してもらうことで授業や施設整備、行事等で職員の働き方改革につながった。	
------------	--	--

II 分析・改善方策

・本年度、本校の課題を明確にし、目標を持って全職員で取り組んできた。若手をプロジェクトチームのリーダーに置き、ベテランがそれを支えながら、スピード感を持って、果敢に挑戦してきた結果、数値的にも教職員の実感としても成果を感じている。何より、失敗を怖れず、挑戦しようとする気運の中で、人材育成が進んだことが大きな成果と感じている。

・生徒の規範意識や人権意識の不十分さから生まれるトラブルが頻発している現状がある。学校生活すべての場面で人権感覚を意図的に育てる仕掛けづくりをしていきたい。

・不登校数が多い。(34名/1月末30日以上欠席)、関係機関と連携し、個別のケース会議等を実施するとともに、学校全体で温かい人間関係が構築できるよう集団づくりに力を入れたい。

2 学校関係者評価委員会

谷西 史郎（育成会会長） 河野 康二（元中学校校長） 坂本 修三（保護司） 小川 創（主任児童委員） 森 尚美（元教育委員長） 辻 章（前PTA会長） 須一 友紀（PTA会長）

3 学校関係者評価

・学校評価アンケートの結果からコミュニティスクールについて、保護者に十分に周知されていない状況が窺える。様々な場面で目的や内容について説明の必要がある。

・本年度、スクールカフェ等、鶴山中独自の取組みが活発に行われ、学校の目標でもある『地域に開かれた学校』の実現に向け、前進した。今後も長期のスパンで継続的な取組を望む。

・礼儀やマナーが身につけていない生徒が見受けられる。人権感覚や規範意識の醸成と同時にスキルの獲得が必要と思われる。家庭、小学校、地域と連携して育てたい。部活動の縦の繋がりの中で身につけやすいので、指導者は、目的の一つとして、意識した指導をしてほしい。

・家庭でのコミュニケーションを大切にすることで、心理的に安定した子どもが育つ。習い事や塾等で子どもたちも忙しいので、保護者が意図的に何でも話せる人間関係づくりや場づくりをする必要がある。

・子どもたちのやる気を引き出すためには、将来の目標や見通しを持たせることが大切である。高校や大学と連携した活動を増やし、キャリア教育に力を入れたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 人権感覚・規範意識の醸成
 - ・特別支援教育の充実・ユニバーサルデザイン化
 - ・教育相談活動の充実・不登校対策
 - ・集団づくり・コミュニケーションスキル獲得のトレーニングの実施
- 主体的な学びの追求
 - ・自ら学びをデザインし、自走する授業づくり
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・家庭学習の充実
- 『地域とともにある学校』の実現
 - ・小学校、高校、大学との連携
 - ・地域による学校支援及び学校による地域貢献の取組
 - ・PTA活動の活性化

